

# えこ便事業拡大に注力 対消費者でPR活動

## 平林金属

【岡山】鉄・非鉄・家電など金属リサイクルの平林金属（本社岡山、平林実社長）



平林社長

は、地域住民などからリサイクル可能な資源を回収する有人施設型の資源回収事業「えこ便」の拡大に注力する。このほど、同社の加入する日本鉄リサイクル工業会の会員として初めて日本デザイン振興会の2016年度クックドデザイン賞の「地域・コミュニティづくり／社会貢献活動」に選ばれたのを機にPR活動に力を入れるとともに、店舗の増設や新サ

ービスの展開に取り組む。これまで中心だった企業間取引（BtoB）だけでなく、企業対消費者間取引（BtoC）に進出することで循環型社会の構築に貢献したい考えだ。えこ便は昨年7月に第1号店となる「西古松局（岡山市北区）」を開設しスタートした。身分証を提示し無料会員となることで、使用済み小型家電、金属、古紙など家庭で不要になった「片づけ物」を簡単に持ち込め、リサイクルした重量に応じてポイントが貯まり、希望の商品との交換ができる。すでに1万2000人以上が会員登録

録を行っており、現在も月500人程度増えているという。金属、古紙など全ての品目を含んだ回収量は月間100ト水準。資源回収だけでなく、来店者に正しいリサイクルの方法などを伝える情報発信拠点としての機能をもち、コミュニティづくりの一翼を担う施設でもある。

平林金属にとって一般消費者を対象とした事業は初めて。近年、「違法回収業者」に、一般消費者が違法行為とは知らないまま、リサイクルを委ねるケースが増えており、適正なりリサイクルを行う企業の経営を圧迫。こうした状況に歯止めをかけるため、えこ便の立ち上げを決めた。準備段階でコンサルタントなど外部からの声を取り入れ、リサイクル業界と関わりのない人も受け入れやすいイメージを作り上げた。今年4月には2号店「安倍局（鳥取県米子市安倍）」を開設。さらに12月に「並木町局」（岡山市南区並木町）、来年には「高屋局」（岡山市中区高屋）がオープンする。人口の多いエリアを中心に、岡山県内で6店舗程度の設置を目指しており、将来的には法規制をクリアした上で出張型の資源回収も視野に入れる。